

# サービス紹介資料

株式会社ソマノベース

# ソマノについて

ABOUT US



CEO / 代表取締役社長

**奥川 季花**

Tokika Okugawa

## 後悔したくない、 させたくない。

それがソマノベースのすべての原動力です。

高校時代、紀伊半島大水害で被災し、友人を亡くしました。

その時、何もできなかった私。

命があるだけで本当は何でもできるのに、

自分に言い訳していた私。

もうあの悔しい想いはしたくないし、誰にもさせたくない。

だからこそソマノベースを立ち上げました。

「意思」と「意義」。

「なぜやるのか」「なんのためにやるのか」。

みんな自分の人生に後悔しないように、

「意思」と「意義」を自分にもメンバーにも、

お客様にも問い続けながら、

やりたいことにチャレンジし続けています。

Mission

**土砂災害による人的被害をゼロにする**

Vision

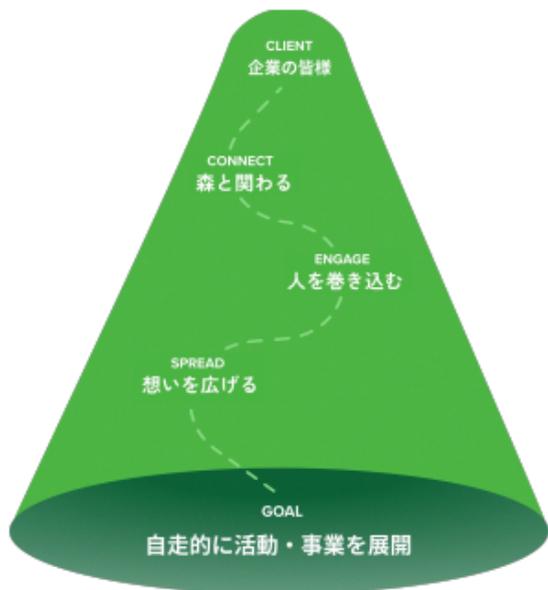
**土砂災害リスクの低い山林を増やす**

私たちは「土砂災害による人的被害をゼロにする」ことを目指しながら、  
企業や行政、個人の方が“自分らしい関わり方”ができるよう一緒に考え、かたちにしています。

# ソマノのシゴト

OUR BUSINESS

# ソマノができること



## 森とつながる道を一緒に考え、 かたちにする

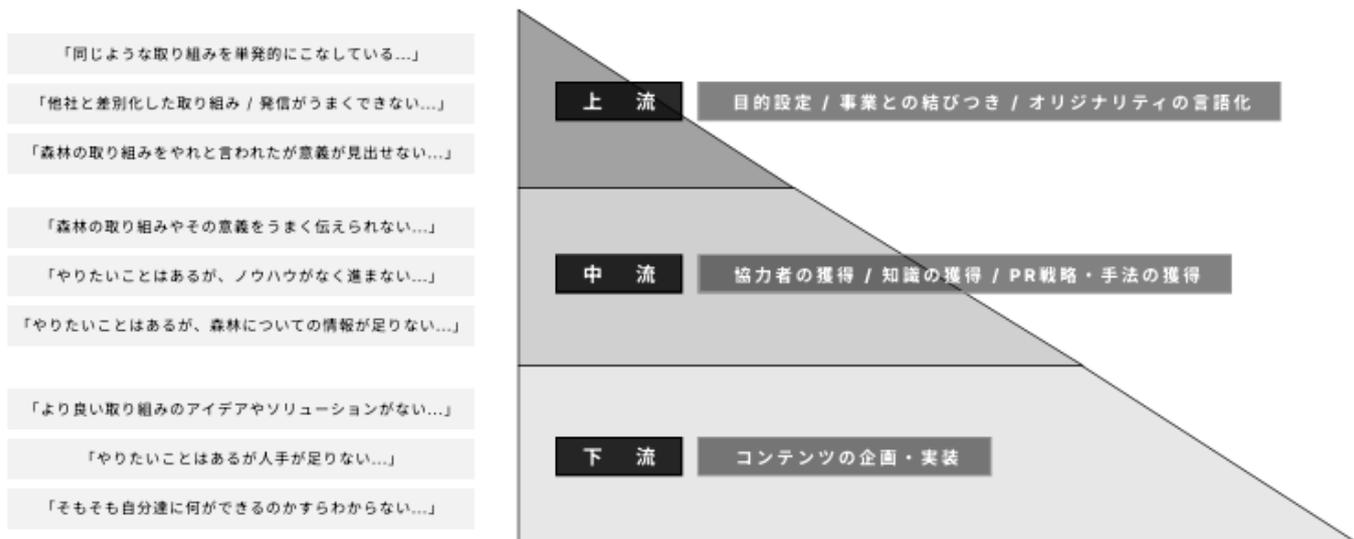
ソマノベースの仕事は、  
皆さんが森を活用した先で「目指したい未来」を  
拾い上げることから始まります。

実現に向けて、独自のソリューションや森林活用  
ノウハウを活かしながら、  
「森との関わり方」「取り組みへの巻き込み方」  
「取り組みの広め方」を提案・実装し、

皆さんが“自分らしい森との関わり方”を見つけ、  
活動・事業を展開していきけるまで  
一緒に取り組みをつくっていきます。

また、ソマンベースは森林に関する取り組みを行う様々な方のフェーズに合わせて、必要なサポートをさせていただきます。

いつからでも、どんな状態からでも、森ともっともっと上手く、楽しく関われます。



# ソマノブランド

SOMANO'S BRAND

# MODRINAE



## 「戻り苗」 - あなたが育てた苗木を、山に戻せるサービス

自宅やオフィスでどんぐりの苗木を育て、その苗木を約2年後に山に植林。植えられるのは、災害リスクのある山林。あなたが育てた苗木がやがて森の一部となり、命を育み、森を豊かにしていきます。

森林課題を「自分ごと」として考えやすくするために生まれた「戻り苗」。これまで森林に縁のなかった人も含め、さまざまな世代の方々が、和歌山の山に足を運ぶようになっていきます。

企業や団体の方々にとっても、同じような変化が生まれています。これまで社員の関心を集めにくかった森林の取り組みにも、少しずつ主体的に関わる姿が見られるようになってきました。



# OUR PROJECT

これまでに生まれた、森とのつながり（事例）

## 駅から始まる、まちとまちが繋がる 森づくりを目指して。

### JR西日本が特急電車「くろしお」停車駅で 植林用の苗木を育成。

CLIENT：西日本旅客鉄道株式会社 様（JR西日本）

STARTED AT：2024.03 -

「安全・安心で、人と地球にやさしい交通」「持続可能な社会の実現」JR西日本グループは、社会インフラを支える企業として、長期ビジョンのもと、サステナビリティを柱にさまざまな領域の取り組みを進めてこられました。「地球温暖化防止・気候変動対策」「循環型社会の構築」「自然との共生」の3分野にわたり、グループ全体で環境目標を設定し、一体となって地球環境保護に取り組まれています。その一環として、2024年、近畿統括本部 和歌山支社の主導により、ソマノベースが運営する「戻り苗」プロジェクトがスタート。特急くろしおが停車する和歌山県内の有人駅に、紀州備長炭の原木となる「ウバメガシ」の苗木を設置しました。苗木は、駅構内に設置されたラダーシェルフ上で数年間育てられたのち、世界遺産・熊野古道を抱える田辺市の森林に植林されます。駅と森を結び、人と自然をつなぐ。「戻り苗」を通じて、JR西日本グループは、地域とともにカーボンニュートラル・ネイチャーポジティブな未来を目指しています。



Case Study 01

#サステナビリティ

#地域を巻き込む

#### ニュースリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000092635.html>



## コミュニティの力で社員と森林をつなぐ、 JALマイレージバンク社が 「MODRINAE（戻り苗）」と ともに歩むESGの一步

CLIENT：株式会社JALマイレージバンク 様

STARTED AT：2024.04 -

「豊かな地球を守り、次世代へ引き継ぐこと」を使命とされているJALグループ様。事業内容は、直接環境保全につながるものではないため、日々の業務のなかで社員の皆さま一人ひとりが環境を意識できる取り組みを大切にされてきました。

その中で、JALマイレージバンク様は、ペットボトルキャップの回収やフードロス削減、マイボトルの推奨など、さまざまな活動を展開。そして2024年、森林保全をより深く実践する一歩として、ソマンベースが運営する「戻り苗」プロジェクトを導入。22鉢の苗木とともに、森林体験や「戻り苗」の仕組みについて学ぶ勉強会を開催された後、社長・新入社員を含む全社員で育苗をスタートされました。

2025年春には、新入社員6名の皆さまもプロジェクトに参加。先輩たちが育てた木鉢を引き継ぎながら、新たな苗の育成をスタートしています。本社には24本の苗を育てられるラダーシェルフも導入され、オフィスの一角に、森へつながる風景が広がっています。

一人ひとりの行動が、未来の森へとつながっていく。

JALマイレージバンク様の想いととも、「戻り苗」の輪が広がっています。

#森と関わる

#社内浸透

#ESG

ソマンベースHP 導入事例

[https://somanobase.com/project/202505\\_jmb/](https://somanobase.com/project/202505_jmb/)



## 東急電鉄「SOCIAL WOOD PROJECT」の 共創パートナーとして連携。

### 駅で苗木を育てる「駅から始める未来の森づくり」 始動で、“木と人がめぐるまちづくり”を加速。

CLIENT：東急電鉄株式会社 様

STARTED AT：2025.03 -

「SOCIAL WOOD PROJECT」とは、“木と人がめぐるまちづくり”を目指す東急電鉄のプロジェクト。駅をはじめ、都市部での生活に積極的に木を取り入れることで、木がもつ魅力や日本の社会課題となっている森林資源の循環への理解を深め、“木と人がめぐるまちづくり”を目指す活動です。  
“伐って、使って、育てて、循環をつくる”という森林資源の循環を育む多様な施策にさまざまな共創パートナー、沿線の方々と連携してチャレンジしています。

「駅から始める未来の森づくり」は、「SOCIAL WOOD PROJECT」において、東急電鉄と当社が新しく始める取り組みです。東急線の駅で苗木を育て、植え付けから約2年後に東京都多摩地区の森に植林します。木材活用だけでなく、未来の森づくりまで駅で行うことで、沿線の皆さまに“木にいいこと”を知って・応援していただけるきっかけを創出します。

#森と関わる

#社内浸透

#森林循環

#### ニュースリリース

[https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001084\\_000010686.html](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001084_000010686.html)



## Ponta会員とともに育てた苗木を 「Pontaの森」へ植林する。

## ロイヤリティ マーケティングが 「MODRINAE」で届けるSDGsアクション。

CLIENT：株式会社ロイヤリティ マーケティング 様  
STARTED AT：2024.09 -

株式会社ロイヤリティ マーケティング様（以下、LM様）は、「無駄のない消費社会構築に貢献する」という企業理念のもと、サステナブルな社会の実現に向けてさまざまな取り組みを行ってこられました。企業と生活をつなぐSDGs活動の支援や、北海道美幌町での「Pontaの森」植樹活動も、その一端です。

そうした取り組みのひとつとして、LM様が提供されているのが、SDGsアプリ「Green Ponta Action」。

SDGsへの関心が高い方や“ポイ活”ユーザーを中心に、広く利用されています。

今回の取り組みでは、その「Green Ponta Action」ユーザー様とPonta会員を対象にご案内し、オリジナルの「炭り苗」を販売。購入された苗木は、現在Ponta会員様のもとで大切に育てています。これらの苗木は、育成後にLM様と森林保全団体more trees、そして北海道美幌町との協働により、「Pontaの森」へと植樹されていきます。また、「炭り苗」は、2021年の開始以降、和歌山県を拠点として、どんぐりの採集や森への植樹を行っています。2023年には北海道を基盤とする企業と共同で、北海道内で苗木を育て、将来的な植樹を目標とする実証実験を始めました。LM様との本プロジェクトは、北海道で採取したどんぐりを全国各地で苗木になるまで育て、北海道に植樹するという新しい取り組みとなります。

#顧客を巻き込む

#社有林の活用

#ロイヤリティ向上

### ニュースリリース

[https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018\\_000092635.html](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018_000092635.html)



## 全社員で進めるカーボンニュートラルの実現。 オフィスで植林用の苗木を育て、植林する。 コンステックホールディングス社が取り組む 持続的な森林保全。

CLIENT：株式会社コンステックホールディングス 様  
STARTED AT：2021 -

コンステックホールディングス様の使命は「よりよい社会基盤構築に尽力する」。事業活動そのものが持続可能な社会づくりに深く関わっていると考えられています。国内外で里山保全や植林に取り組み、社員一人一人が持続可能な社会づくりに貢献できる機会をつくってこられました。しかし、いずれも物理的な距離から参加者が限られてしまうことに課題もあつたそうです。そこで、どこでも社員一人一人が環境保全に参加できる環境づくりを目的に、オフィスで植林用の苗木を育てられる「戻り苗」を導入いただきましたCSRやSDGsの活動の一環として植林活動を行う企業様は少ないと思います。しかし、植林地は郊外であることが多く、物理的な距離が原因で参加者が限られてしまいます。そこで、どこでも苗木を育てられる「戻り苗」を活用し、オフィスでのSDGs活動への参加を可能にしました。自らオフィスで苗木を育てることは、森林保全に対して当事者意識を高めることにも繋がります。また、植林前には実際に林業に携わる者によるセミナーを受講することで、より深く森林保全を理解できるようコーディネートさせていただきました。これらの取り組みは、広報活動にもご活用いただいています。

#PR・広報

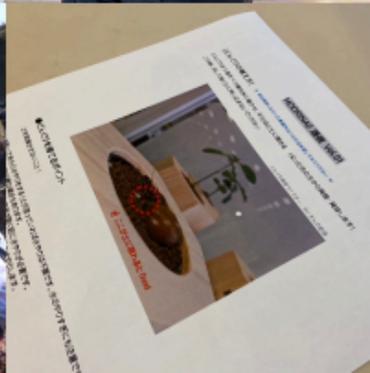
#社内浸透

#カーボンニュートラル

### ニュースリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000092635.html>

## Case Study 05



「本物の木を使うこと」で、  
企業のものづくり姿勢を示し、  
これまでにないオーディオ体験を目指す。  
プロダクトの木質化をプロデュース。

CLIENT：アンドサウンド株式会社 / 株式会社日本ディックス 様  
STARTED AT：2024 -

高級オーディオブランド「Pentaconn」を運営するなど、精密で高品質なイヤホンコネクタを企画・製造する日本ディックス様。聴覚に留まらないオーディオ体験の向上と、他社ブランドとの差別化を目的として、本物の木を使ったオリジナルマイクロコンポを開発を計画しておられた。

ソマノベースは、木を使った筐体の制作を担当。聴覚だけでなく視覚や触覚からも、自然の安らぎを感じられるコンポを目指した。木材の選別や調達、筐体の設計・デザイン、木工職人のアサイン、製造のマネジメントを行った。音の響きの長さで他の素材に負けないように、数種類の木材を検討し和歌山県産のヒノキを選んだ。また3Dプリンティングなどに比べて精密な製造が難しい分、音響設計者と木工職人が直接言葉交わし、設計について話し合える場を設定しながらプロジェクトを進めた。日本ディックス様の技術力も相まって、音質の豊かさはもちろん、木のきめ細やかな美しさや手触りを楽しめるマイクロコンポが完成した。

こだわりを持って製造されたマイクロコンポは、アンドサウンド株式会社にて販売されている。

#森と関わる

#木質化

#ブランディング

ニュース

<https://av.watch.impress.co.jp/docs/news/1650601.html>

